

# 高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種費用助成制度のご案内

【接種前に必ずお読みください】

この予防接種は、ご本人が接種を希望する場合に限り接種することができます。  
接種を受ける義務は無く、接種を希望されない方は、原則として予防接種をする必要はありません。  
定期予防接種として助成を受けられる機会は、今回1回限りです。

**実施期間** 令和4年4月1日（金）から令和5年3月31日（金）まで

**対象者** 接種日現在、足立区に住民登録のある方で下記に該当し、初めて  
23価肺炎球菌ワクチン予防接種を受ける方

- ① 令和4年度に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳となる方（例65歳は昭和32年4月2日生～昭和33年4月1日生）
- ② 60歳以上65歳未満の心臓、じん臓・呼吸器の機能、またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能に障がいがある方（身体障害者手帳1級相当）

※ このご案内が届いた方でも、既に23価肺炎球菌ワクチンを接種されたことがある方（自費で接種した方も含む）は助成制度の対象外です。

**接種費用** **無料**

※ これまで生活保護等受給者ではない方からは4,000円の自己負担金を徴収していましたが、令和3年10月1日より当面の間（少なくとも令和5年度まで）東京都から2,500円・足立区から1,500円の補助を行っているため、令和4年度は全員自己負担金免除で接種できます。

**ワクチン** きょうまく  
23価肺炎球菌荚膜ポリサッカライドワクチン

**接種場所** 別紙『高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種指定医療機関名簿』をご覧ください（東京23区の指定医療機関でも接種できます。他区での接種を希望される方は事前に指定医療機関になっているか確認してください。）。

**接種方法** 接種日当日に『高齢者用肺炎球菌予防接種予診票』の太枠内を記入し、指定医療機関へお持ちください。

※ 麻痺や正確な意思の確認が難しいなどにより、接種を受ける本人が希望書に署名できない場合には、家族やかかりつけ医によって、特に慎重に本人の接種意思の確認をした上で、接種適応を決定する必要があります（最終的に確認ができなかった場合には、予防接種法に基づく接種はできません。）。

※ 自己の健康の記録として予診票控えは大切に保管してください。

## ＜肺炎球菌ワクチン予防接種について＞

### 肺炎球菌ワクチンの効果

肺炎球菌ワクチンは、肺炎球菌による肺炎を予防するワクチンです。肺炎球菌は、肺炎、気管支炎、敗血症、髄膜炎などを起こす細菌の一つであり、特に高齢者の肺炎の20～40%は、肺炎球菌が原因といわれています。

肺炎球菌ワクチンは、肺炎球菌による感染症の約70%に効果が期待されます。接種をしてから免疫（抗体）ができるまで、平均1か月程度かかります。健康な人では、少なくとも接種後5年間は効果が持続するといわれています。

裏面へ続く

## 他の予防接種との接種間隔

肺炎球菌ワクチンは不活化ワクチンの予防接種です。医師が必要と認めた場合には、他の予防接種と同時に接種することができます。医師とよく相談してください。

## ■ 接種に関する注意事項 ■

### 予防接種を受ける前に

#### (1) 一般的注意事項

肺炎球菌予防接種について、このお知らせをよく読み、必要性や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師に相談しましょう。十分に納得できない場合には、接種を受けないでください。予診票は接種する医師にとって予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が、責任を持って記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。ただし、接種を受けることは義務ではなく、本人が接種を希望する場合に限り接種を行います。

#### (2) 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人  
一般的に体温が37.5℃を超える場合を指します。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人  
急性の病気で薬を飲む必要があるような人は、その後の病気の变化がわからなくなる可能性があるため、その日は接種を見合わせるのが原則です。
- ③ 肺炎球菌ワクチンに含まれる成分によってアナフィラキシーを起こしたことが明らかな人  
「アナフィラキシー」とは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。
- ④ その他、医師が不適切な状態と判断した場合  
上記①～③に該当しなくても医師が接種不相当と判断した時は接種できません。

#### (3) 予防接種を受ける際に、主治医と相談しなくてはならない人

- ① 心臓血管疾患、じん臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有することが明らかな人
- ② 予防接種で発熱などの副反応が見られた人
- ③ 過去にけいれんの既往がある人
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている人及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる人

### 接種後の注意

- (1) 予防接種を受けた後30分間は急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- (2) 予防接種を受けた日は、入浴は差し支えありません。ただし、注射したところをこすらないでください。いつもどおりの生活をしてかまいませんが、激しい運動や多量の飲酒は避けましょう。

### 肺炎球菌ワクチンの副反応

予防接種の注射の痕が赤くなったり、腫れたり、痛んだりすることや、発熱・悪寒・頭痛・全身のだるさなどがみられることがあります。通常2～3日のうちに治ります。それらの症状がひどかったり、長引いたりする時は、医師（医療機関）の診察を受けてください。そのほか、分からない時は、お問い合わせください。

## ◆ お問い合わせ先 ◆

お問い合わせコールあだち 3880-0039

午前8時～午後8時まで（1月1日～3日を除く毎日）